

第4章 各主体の役割

より良い環境に恵まれた持続可能な社会づくりのため、社会を構成するすべての主体が、それぞれの特性に応じ、適切な役割を果たしながら、環境学習に取り組んでいくことが必要です。

1 行政

(1) 県

県は、主として、県民の主体性を尊重しつつ、人材の育成と情報提供、各主体による環境学習の取組の支援、様々な主体が行っている活動・取組を結びつけるなど、環境学習を推進するための基盤づくりを担います。

環境に関する施設や研究機関について、施設の開放や情報提供等の充実を図り、環境学習の場としての有効活用を推進します。

また、国や市町村、公益法人、NPO、事業者等と連携しながら、広域的な課題等に対応した環境学習を推進します。

環境は、社会や経済の様々な分野に関連することから、生活環境部や教育庁だけでなく、各部局と横断的に連携・協力して、総合的・効果的な環境学習の推進に努めます。

取組事例

- ・ 「岡山県地球温暖化防止実行計画」に基づく電気や燃料、水道や複写機用紙の数値目標による使用削減、重点取組の実施
- ・ 日常業務における冷暖房の室温設定を考慮するクールビズやウォームビズの取組
- ・ 公共交通機関や自転車又は徒歩で通勤する「ノーマイカーデー運動」の実施
- ・ 「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律」に基づいた「岡山県グリーン調達ガイドライン」による環境にやさしい物品等の優先的な調達
- ・ 岡山県認定リサイクル製品の優先的な使用、購入及び県産品の利用促進による地産地消の促進
- ・ 「岡山県環境配慮公共事業ガイドライン」による環境に配慮した公共事業の計画、設計、施工の推進
- ・ 環境マネジメントシステムの運用によるオフィス活動やイベント開催等における環境負荷低減等の取組の継続的实施
- ・ 県内のNPO、企業、学校、地域団体などが連携して効果的な環境学習を推進するための仕組みの整備

(2) 市町村

市町村は、住民にとって最も身近な行政機関であり、住民のニーズを敏感に把握し、地域の自然的・社会的な特性に応じた環境学習の推進を図ることができます。

身近な場における講座や学習会など、地域住民の環境意識の向上や環境保全活動への取組を推進するための機会づくり、地域における環境保全活動に対する協力や支援を行うなど、地域に根ざした環境学習を推進することが期待されます。

また、公民館や児童館など、地域の社会教育施設等の積極的な活用を図るとともに、各主体間の連携・協力を支援することが期待されます。

取組事例

- ・ 環境学習の推進に係る担当の設置、専門スタッフの配備、担当者のスキルアップのための各種研修の実施
- ・ 環境担当課と教育委員会、関係課室と密接な連携、他の自治体等における先進事例の研究や各市町村相互の連携、協力による環境保全に向けた取組の実施
- ・ 自然的社会的条件に応じた地域の発意に基づく独自の環境学習に関する施策・事業の実施
- ・ 住民の環境学習が容易かつ効果的に行われるよう意識の高揚のために必要な情報等の収集と提供及び環境保全の学習や活動の場と機会の提供
- ・ 環境学習の指導者となる人材の確保、育成、すでに指導者として活躍している人材の把握とその活動の場や機会の提供
- ・ 地域の環境問題に取り組んでいる住民や事業者、民間団体とのネットワークの構築及び各主体間の連携、協力への支援
- ・ 事業者、民間団体等との協働による環境学習が可能な施設設備やプログラムの提供、清掃活動やリサイクル活動などの各種行事、普及啓発イベント等の開催
- ・ 環境マネジメントシステムの国際規格である ISO14001 や環境省が策定したガイドラインに基づくエコアクション 21 等の認証取得又はその登録維持
- ・ 環境学習・環境保全活動に関するカリキュラムを組み入れた職員研修の実施と各施策・事業等における環境配慮に基づいた展開
- ・ 地球温暖化対策推進法の求める省エネ・省資源などオフィスにおける環境負荷低減の実践や、県認証リサイクル製品、県産品の購入のほかグリーン購入の促進
- ・ 職員のマイカー通勤等の自粛、クールビズやウォームビズ、ライトダウンなど環境保全の普及啓発運動の実施
- ・ 公共施設での環境負荷低減や公共事業における環境への配慮

2 学校

学校は、教科の学習だけにとどまらず、子どもたちの人間形成に大きな影響を与える場であり、効果的な環境学習が期待できます。また、学校における環境学習は生涯学習の一環であり、その基礎的部分であると考えられます。

環境問題の解決は一人ではできません。他人とのコミュニケーション能力が大変重要になってきます。環境学習のおもしろみや大切さなどが、独りよがりの間違っただけの考えではなく、正しく理解されていくことが重要であることから、幼稚園から高校まで、教育活動の全体を通じて、発達段階に応じて、人と関わる力を養い、体験を通じた環境学習の充実を図り、家庭・地域等との連携のもと、より良い環境に恵まれた持続可能な社会の主体を育てる環境学習を進めることが期待されます。

● 発達段階に応じて、「人と関わる力」を養う

取組事例

- ・ ごみ拾いや落書き消しなど実践による大切な環境についての知識の習得
- ・ 実験器具を使っでの測定や調査の実施と考察
- ・ 校外学習としてのエコツアー（環境学習施設見学、体験研修等）への参加
- ・ 植物や動物への関わり
- ・ 廃棄物から実用品を作り出す経験
- ・ 地域住民や環境団体など校外の講師による環境学習出前講座の利用

● 教職員の資質向上に努める

取組事例

- ・ 岡山県総合教育センターにおいて、環境学習に関する講座の開催
- ・ 教職員と児童生徒が一体となった学校全体の光熱水費の削減など、省資源、省エネルギー活動の実践による環境負荷の低減
- ・ NPO や行政が行う環境学習やイベントへの教職員の積極的な参加
- ・ 地域の環境への理解を深め、地域や他の学校と協働で実施する環境保全活動への参加

● 家庭・地域等と連携・協力する

取組事例

- ・ PTA や他の民間団体、事業者及び行政等との連携、協力による環境学習の取組と日常生活に密着した環境保全活動の継続的な展開
- ・ 学校や地域の自然環境や社会環境の実態を考慮し、学校の教育活動全体を通

して行う地域社会及び関係機関との連携を図った幅広い環境学習の推進

- ・ 開かれた学校づくりの視点に立った学校が地域に学び、地域もまた学校から学ぶという相互関係の構築
- ・ 環境学習の成果を日常的に実践できる家庭と学校相互で、同じ基準により環境保全の取組ができるよう、家庭との情報交換の緊密化

● 教材を開発、活用し、体験的な学習の機会を充実させる

取組事例

- ・ 自然環境などの特性に裏打ちされた地域の伝統や文化、先人の知恵に関する情報の収集及びその教材化と環境学習における活用
- ・ 児童生徒及び保護者、教職員を対象とした環境学習の教材や各種パンフレット等の作成と活用
- ・ 各学校で作成している環境学習に関する教材の共有化や発達段階に適した新たな環境学習教材等の開発と活用の促進
- ・ 森林・林業教室をはじめとする農林水産業体験や水生生物調査、星空継続観察などの体験型学習を中心としたいろいろな環境学習プログラムの活用
- ・ 移動環境学習車など県が整備した環境学習教材や各種機器・機材の活用
- ・ 環境学習を効果的に実施するため、地域の様々な主体の協力を得ながら遊びや体験を通して学ぶ場・機会の提供
- ・ 地域とともに日常的な環境学習を進めるためのクラブのような課外活動等の設置についての検討

● 学校の環境を整備する

取組事例

- ・ 学校敷地内の緑化や植樹、グラウンドや校地内の芝生化など、計画的な環境改善による環境配慮の学校づくり
- ・ 学校を事業者・消費者の一人とした環境マネジメントシステムの導入と実践
- ・ 木材、木製品の導入など環境を考慮した学校施設整備の推進
- ・ 地域在来の植物に配慮した緑化やビオトープづくり、既存の学校施設の新築、改修の際の環境保全に考慮した施工など、学校の屋外教育環境の充実
- ・ 太陽光発電や風力発電等のシステム、雨水貯留タンクや生ゴミ処理機器などの設備の導入と環境学習教材としての活用
- ・ 児童生徒と地域住民の双方が参加できる環境学習の開催など、地域ぐるみの活動の場としての活用

【地域と連携した環境学習の取組：倉敷市立水島中学校】

1 地域の概要

倉敷市水島地域は、かつて浅海漁業とい草やれんこんなどの生産で栄えた農漁村地帯でした。戦後、「太陽と緑と空間の街づくり」のテーマのもと、鉄鋼と石油化学を中心とするコンビナートが形成されました。しかし一方では、公害問題を引き起こす事態が進行しました。次世代によりよい生活環境を手渡すことができるよう、水島地域では住民を主体に行政・企業等による様々な活動が行われています。

こうした中、水島地域の中央にある倉敷市立水島中学校では、環境学習の取組を長年継続してきました。同窓生が代々植え続けてきた校地内の桜はそのシンボルです。



水島中学校 4月の校庭

2 継続的な環境学習の取組 ～総合的な学習の時間を中心に～

本校では、環境学習の重点目標を次のように設定し、第1学年の「総合的な学習の時間」を中心に様々な教科・領域で取り組んでいます。

- ・環境問題の因果関係や相互関係を総合的に把握・理解する能力を育成すること
- ・環境保全や環境の改善に主体的に働きかける能力や態度を育成すること
- ・環境に対する人間の責任を自覚し、賢明な選択や意志決定を行える能力や態度を育成すること

第1学年では、毎年倉敷市環境監視センターを訪問し、空気や水の分析の学習をすることで、地域の環境を見つめ、環境に対して科学的にかかわろうとする態度の育成に役立っています。この学習を受け、大気・水・地球温暖化・エコロジーなどのテーマの中から一人一人が自らの課題を設定し、調査したり行動したりする活動を行い、その成果をまとめ、地域や保護者に公開する「成果発表会」で発表しています。活動には「みずしま財団」等の地域の諸団体のサポートをいただいています。



環境監視センターでの学習

3 地域との連携

水島中学校区青少年を育てる会が中心になり、毎年7月に地域住民・中学生・小学生がボランティアで集結して「地域いっせい活動」を実施しています。ただ掃除をするだけでなく分別収集やリサイクルを実際に体験することで、人々の絶え間ない努力と協力で、水島地域の環境が保全され、改善されてきたことを実感し、自分もその一員であることを自覚することになります。このように伝統はさらに引き継がれていきます。



地域いっせい活動

【地域と連携した環境学習の取組：岡山県立津山工業高等学校】

1 地域の環境保全に貢献する「Project R」

大量消費型のライフスタイルを見直し、身近なバイオマス資源のリサイクルをとおして、地域の環境保全に貢献する取組。

Review（見直し）、Resource（資源）、Recycle（再生利用）の3つの「R」から「Project R」と命名。

2 「Project R」の概要

(1) 不要な「もの」の回収

- ・池などに流れ込んだ富栄養化の原因物質（窒素やリン）
- ・未活用バイオマス
- ・廃食用油

(2) 有用な「もの」への加工

- ・飼料、生分解性バイオマスプラスチック、ペレット燃料、石けん

(3) 地域への提供

- ・有用な「もの」、知恵



《学校でのその他の取組》

- ・ 校舎の周りに数多くの種類の樹木があるため、特別非常勤講師を招き、樹木学習を行う。その理解の上で、例えば、PTA と一緒に校内の桜の樹勢回復に取り組む。
- ・ 学校内の電気使用量の状況を作成し、CO₂ の排出量を算出する。
- ・ 川の探検隊を結成し、自分たちで追求したい課題を設定して、生き物や草花に触れたり、川遊びをしたり、水質を調べたりして、川への親しみや大切にしたいという気持ちを育てる。その上で、マップにまとめたり、清掃活動したりするなど実践活動に結びつける。
- ・ 複数年間の環境学習のカリキュラムを立て、ふるさとの自然の環境を良くするよう、海辺の観察会、草花や野菜の栽培、水の汚れの報告会、エコツアーなど実践を通して環境学習を行い、「環境宣言書」を作成する。
- ・ 森林インストラクターを招き、近くの山へ遠足に行き、ドングリの種類や森林の働き等について理解を深める。
- ・ 縄文時代の生活を体験し、現在のエネルギーの大切さを気づかせる。また、ソーラークッカーを使って調理し、太陽光エネルギーの長所、短所を学ぶ。
- ・ ゴーヤを教室の夏の日よけ（緑のカーテン）として育て、教室の温度を下げる。ゴーヤについては給食に使ったり、肥料に使ったりするなどリサイクル社会の形成についても学習する。
- ・ 栽培した菜種から菜種油を採取し、調理実習に利用した後の廃食用油を軽油代替燃料（BDF）に精製し、当該燃料を菜種栽培地を耕すトラクターの燃料として再利用する取組（菜の花プロジェクト）により、資源循環型社会の研究をする。
- ・ 環境浄化微生物を用いて河川の水質浄化を研究する。
- ・ シュレッター排紙からアルコールや苗ポットを製造し、循環型社会の形成の研究をする。
- ・ ペットボトルをリサイクルした植木鉢を作成する。
- ・ 廃食用油バイオディーゼル燃料を精製し、校内での自家発電などに利用する。また、廃食用油から石けんづくりなども行う。
- ・ 間伐材を素材にしたプランターやガーデニング製品の利用を通して、材料としての木材の良さや利用の意義について理解を深める。
- ・ 食品廃棄物から堆肥を作ったり、廃食用油からバイオディーゼル燃料を作ったりするなど、バイオマス学習に取り組む。
- ・ 古紙リサイクルの観点から、古紙をセメントと混ぜ、製品化する技術を大学と連携して研究し、透水性遊歩道、フラワーポットなどを製作する。
- ・ ホタルの生息地の周辺の清掃活動をし、保護や水質保全を訴えるポスターを作成し、掲示する。看板も保護者と一緒に設置し、自然の保護や水質保全の重要性とふるさとを愛し育てていこうという気持ちを育てる。
- ・ 環境保全の実践的環境学習として、学校農場の一部を利用し、ビオトープガーデンづくりに取り組む。

3 地域団体・NPO

地域は、環境保全に向けた取組を進めていく上での具体的な行動の場であり、自治会、子ども会、婦人会、老人クラブ等の様々な団体があり、美化活動、清掃活動、リサイクル活動、自然保護活動など地域に根ざした環境保全活動を行っています。これらの団体は、歴史、風土、自然、慣習などに応じた独自の個性を作り出しているため、世代や地域環境に適した活動が可能となります。

また、専門性や行動力を生かした活動を実施している NPO は、環境保全活動等への牽引役として大きな役割が期待されます。

一方、地域には、公民館等の社会教育施設や生涯学習センター等の学習・交流拠点となる施設があるため、それらを活用して、多様な団体間のネットワークづくりを推進すること等により、ESD（P40 参照）活動など地域全体での取組の充実が期待できます。

● 環境保全に対する住民意識を高め、環境学習や環境保全活動への参加を促す

取組事例

- ・ 地域における環境問題の積極的な取組
- ・ 自治会、子ども会などの地域団体における環境学習会、研修会等への参加を通じた環境保全への理解と認識
- ・ 地域の文教施設や環境学習、自然体験活動等を行う各種施設等の利用と、地域の自然や文化財、歴史的な町並み等の保全への理解と認識
- ・ 様々な主体による地域での清掃活動やリサイクル活動、自然観察会、植樹活動、緑化活動などの環境保全活動等への参加

● 地域での環境活動の実践を担うリーダー的な人材の育成を促す

取組事例

- ・ 自治会、子ども会、婦人会、老人クラブ等の中でのリーダー育成
- ・ NPO の構成員の環境学習リーダー研修への参加

● 実践の輪や活動の幅を広げられるよう交流機会の提供に努める

取組事例

- ・ 自らの環境保全活動と関連するテーマに取り組む他の民間団体との連携、協力による継続的实践

- ・ 行政及び県民、事業者等とのパートナーシップの構築、その中でのリーダーシップの発揮、環境保全への取組の提案や実施
- ・ NPO や企業、学校、地域団体などの情報交換の場となる環境学習協働推進広場の活発な活動

● 公益の新たな担い手として専門性を生かした環境保全活動を推進する

取組事例

- ・ 公共の場でのごみの分別回収への協力や野外活動でのごみ等の持ち帰りの実践など、環境負荷低減のためのごみの適正処理の推進
- ・ 県民や事業者、行政が実施する環境保全等に関する活動、事業、施策等への協力、支援
- ・ 団体として、自らのエコオフィス等の環境保全率先行動の実践
- ・ 民間レベルでの環境保全活動に関する様々な国際協力の推進

● 様々な活動団体のコーディネートをする

取組事例

- ・ 各種助成制度の活用による子どもや地域住民が参加できる体験活動の場、機会の提供
- ・ 環境学習の出前授業を希望する者に対する講師派遣の斡旋

【みどりの少年隊による街頭募金活動】

県と(社)岡山県緑化推進協会では、4月・5月の2か月間を「春のみどりの月間」、4月29日から5月5日までを「みどりの週間」とし、県内各地のみどりの少年隊等が参加する緑の募金街頭募金を実施しています。

地球温暖化などの地球規模での環境問題がクローズアップされる中、緑の保全と創造はますます重要になっています。



募金は森づくりや住民参加の記念植樹、学校、公園、道路等の公共施設への植樹など、身近な緑化などに役立てられます。

平成20年度は19団体、約540名が緑の募金街頭募金を実施しました。

4 事業者

事業者は、企業の社会的責任として、自らの事業活動に伴う環境負荷の低減に積極的に取り組むとともに、従業員等に対する環境学習を実施することが求められています。また、環境やエネルギー関連産業等においては、自らが持つノウハウや人材等を生かした環境学習の実施、見学の受入など、環境に関する積極的な貢献活動が期待されます。

● 事業者としての率先活動を実施する

取組事例

- ・ 環境保全に関する率先行動計画の策定とその実行、及び環境マネジメントシステムのISO14001やエコアクション21等の認証取得やその登録維持
- ・ 工場や事業場等の敷地内の緑化や省エネルギーの取組、自然エネルギーの利用、グリーン購入の推進、廃棄物のゼロエミッションへの取組等の環境配慮行動の積極的な実践
- ・ 不要不急の自動車使用の自粛及び業務用車両への低公害車の導入、アイドリングストップやエコドライブの実践、従業員の通勤や業務に係る公共交通機関の利用の推進
- ・ 環境負荷の少ない製品の開発、製造、流通、販売、消費等の取組と、環境保全技術の開発等による環境ビジネス振興への寄与
- ・ 原燃料や製品等の輸送における鉄道・海運の積極的利用や共同配送による効率化
- ・ 環境保全を促進する農業・林業・漁業の実施や、岡山県エコファーマー認定制度等の認定取得とその実践
- ・ 環境保全型の手法による、地域の自然環境や生態系に配慮した森林や農地、漁場等の利用と整備、継承

● 従業員等組織構成者に対する環境学習を実施する

取組事例

- ・ 環境カウンセラーや国等の事業者向け環境学習プログラムを活用した従業員に対する研修や訓練の実施
- ・ 従業員が個人として地域の環境保全活動等に参加しやすい職場の環境づくり
- ・ 環境法規の遵守や環境の保全に対する意識向上のための学習会、研修会等の実施

● 見学の受け入れ等専門性を生かした学習の場を提供する

取組事例

- ・ 工場や事業場等の見学施設の開放や各種イベントの開催などによる地域における環境学習推進への協力
- ・ 生活体験や自然体験、職業体験など業種の多角的な側面を重視した体験活動の場や機会の提供など、環境学習振興に向けた生産活動の場の開放に関する協力

● 地域に溶け込んだ活動として、地域貢献活動を実施する

取組事例

- ・ 地域の環境美化活動や環境イベントの実施や参画
- ・ 事業者としての環境保全に関する社会貢献活動の推進
- ・ 環境会計の導入や環境報告書の作成等による自らの環境保全の取組の積極的公表や、県や市町村、県民、学校、民間団体等との連携による環境情報の収集、提供
- ・ 地域の自然環境や地域資源を生かしたエコツーリズム、グリーンツーリズムに関する理解と協力、並びに地域間交流の促進
- ・ 食農教育などを通じた県民、学校、一般事業者及び民間団体等への食と農に関する情報や技術の提供

5 大学等

大学等においては、環境保全に関する教育や研究はもとより、その成果等を持続可能な開発のための教育として地域に還元していくことが期待されます。

また、環境に配慮した実践行動をとれるような専門的な知識を持った人を育成し、地域における活動を支援していくことが期待されます。

● 高度な専門性を生かした学習プログラムを開発する

取組事例

- ・ どの年代でも活用できる学習プログラムの開発
- ・ NPO や行政と連携した学習プログラムの活用

● 子どもを対象にした体験学習の機会等を提供する

取組事例

- ・ 自然環境研究会などサークル活動の一環としての大学生による環境学習の出前講座
- ・ 地域の子ども会と連携・協働したイベントや廃品回収、清掃活動

● 指導者、技術者等を養成する

取組事例

- ・ 大学の教育学部等の教職課程において、持続可能な開発のための教育についての積極的な取り上げ、及び実践的な指導方法の教授
- ・ 社会人を対象にした指導者養成講座の開催

● 環境学習に関する調査・研究をする

取組事例

- ・ 大気、水質環境に関する調査・研究の実施、及び定期的な情報発信と結果数値等に対する指導や教材の開発
- ・ ごみ・リサイクルに関する調査・研究の実施、及びすぐに使える学習教材の開発
- ・ 騒音・振動に関する調査・研究の実施、及びその成果の地域への還元と問題の解決指導
- ・ 地球温暖化防止対策として、産学連携での自然エネルギーに関する試験・研究、実証データの収集、実用化による貢献

6 県民

家庭は、社会を構成する最小単位であり、人を育てる原点であることから、「人づくり」を進めていく上で、重要な役割を担っています。家庭に対しては、日々の生活の中で、家族ぐるみで環境について考え、生活文化の知恵を学び、暮らしの中に環境に配慮した行動、ライフスタイルを取り込んでいくことが期待されます。

● 子や孫へ暮らしの知恵を伝える

取組事例

- ・ 世代間を通した日常生活における環境に配慮する様々な暮らしの知恵の伝授
- ・ ごみの出ない生活の実践ノウハウ、打ち水や風鈴などにより涼をとる暮らし方の訓育

● 環境にやさしい生活習慣や社会規範を身に付け、生命や環境を大切にする心を育てる

取組事例

- ・ ごみの減量化の実践と電気や燃料、水の節約など日常生活における環境にやさしい行動の実践
- ・ 不要不急の自動車使用の自粛、公共交通機関や自転車の利用など環境負荷の少

ない交通手段の選択

- ・ 自動車使用時のアイドリングストップやエコドライブの実践、また自動車使用と徒歩や自転車、公共交通機関を併用するパークアンドライドの実施
- ・ 花壇や菜園で緑を育てることによる自然のしくみの考察
- ・ 五感で感じる原体験としての自然体験や田植え、芋掘り等の農作業等を通じた農業体験、森林、水辺、海辺体験の推進

● 家庭で環境問題について話し合い、家族ぐるみで実践する

取組事例

- ・ 環境ラベル等についての理解とリサイクル製品や環境負荷の少ない商品やサービスの選択、地産地消、マイバッグ運動や過剰包装の辞退などグリーンコンシューマー（できるだけ環境に配慮した製品を選んで購入する消費者）としての行動の実践
- ・ 合併浄化槽の設置や下水道への接続、水切りネット等の使用、廃食油の適正処理など生活排水に起因する水質汚濁防止への配慮
- ・ 住宅建築における自然エネルギーの活用や雨水貯留システムの設置、植栽や生垣による家屋や宅地の緑化など住環境に関する環境配慮の実践
- ・ 普段の暮らしと自然とのつながりを家族で話題にしてみる
- ・ 地球温暖化やごみ問題など身近な環境問題を家庭で話し合い、県などが主催する作文やポスターコンクールなどへの応募
- ・ 親が子どもに本を読み聞かせるだけでなく、子どもが親に本を読み聞かせ、話し合う機会の創出

● 地域活動へ積極的に参加する

取組事例

- ・ 地域で実施する清掃や草刈りへの積極的な参加
- ・ 町内会主催の環境問題に関する講演、討論会への参加
- ・ 婦人会や環境衛生協議会等が主催する環境イベントへの参加やボランティアとしての協力

● 地域の周辺環境に配慮した行動をする

取組事例

- ・ 落書き等を発見した場合、警察等への通報
- ・ 家庭で使用した食用油は下水と一緒に流さないように配慮
- ・ ヘチマやゴーヤ、朝顔などを栽培し、緑のカーテンで窓の日差しを軽減
- ・ 自宅の庭や町内へ花を植えたりするなど花いっぱいの町づくりの推進

《環境にやさしい暮らし方》

(台所で)

- ・ 冷蔵庫は正しく設置しましょう。壁との隙間が十分になかったり、上に物が置いてあったりすると、電気を余分に消費することになります。両側が壁に接している冷蔵庫を片側が壁に接するように変えると、これだけで、電気代が年間約990円の節約（電気45.08kWh、CO₂ 18.5kg削減）になります。
- ・ 冷蔵庫内の詰めすぎを避けましょう。食品を詰めすぎると、冷気の流れが悪くなり、消費電力が増加します。詰め込んだものを半分にすると、電気代、年間約960円の節約（電気43.84kWh、CO₂ 18.0kg削減）になります。簡単にできる方法としては、冷蔵庫の中に入れなくても良い食品、例えば、じゃがいも、玉葱などの根菜類、ピーマン、トマト等、封を開けていないレトルト食品・缶詰などは常温保存できますので、冷蔵庫から出すと良いでしょう。
- ・ 冷蔵庫内の冷蔵温度の設定を季節によって調節しましょう。冬の間、「強」から「中」にすると（周囲温度は15℃）、電気代年間約1,360円の節約（電気61.72kWh、CO₂ 25.3kg削減）になります。
- ・ 電気ポットは、長時間使用しないときにはコンセントからプラグを抜きましょう。使用時に再沸騰させた方が、電気の節約になります。満タンの水2.2ℓを入れ沸騰させ、1.2ℓを使用後、6時間保温状態にした場合と、プラグを抜いて保温しないで再沸騰させて使用した場合は、プラグを抜いた方が、電気代年間約2,360円の節約（電気107.45kWh、CO₂ 44.1kg削減）になります。また、意外と多くの電気を消費するので、買い換える際には、ぜひ省エネ型の商品を選びましょう。
- ・ 電子レンジを上手に利用しましょう。野菜の下ごしらえ、ご飯の暖め直しなど。ご飯を炊飯器で保温し続ける場合と、一度冷凍させて電子レンジで加熱する場合とで比較してみると、1.5合を4時間後に食べるケースでは、後者の方が電気の節約になります。
- ・ コンロの炎は経済的な火力に心がけましょう。水1ℓ（20℃程度）を沸騰させる時、強火から中火にした場合（1日3回）、ガス代年間約360円の節約（ガス2.38m³、CO₂ 5.5kg削減）になります。

(風呂場、洗面所、トイレで)

- ・ 入浴は間隔をあけずに入りましょう。2時間放置により4.5℃低下した湯（200ℓ）を追い炊きする場合（1回／日）に比べ、ガス代年間約5,730円の節約（ガス38.2m³、CO₂ 88.9kg削減）になります。
- ・ 洗濯には、お風呂の残り湯を利用しましょう。残り湯は水道水よりも汚れ落ちを良くし、水の節約にもなります。
- ・ 歯磨きは水道水を流したままにせず、コップを利用しましょう。例えば4人家族が1日2回の歯磨きでコップ2杯ずつでは約1.6ℓで済みます。
- ・ 温水洗浄便座は、使い終わったら必ず蓋を閉じるようにしましょう。便座の蓋が開けっ放しになっていると、放熱により余分な電気がかかります。貯湯式の場合、電気代が年間約770円の節約（電気34.90kWh、CO₂ 14.3kg削減）になります。

(リビングで)

- ・ 冷暖房などの節電をするため、ブラインドやカーテンなどを活用しましょう。冷暖房時、ガラス窓にブラインドやすだれをつけると、外部からの熱を遮断することができます。逆に暖房時は、熱が逃げるのを防ぐために、厚手のカーテンを床まで垂らすのが効果的です。
- ・ 照明器具には、電球型蛍光灯ランプを利用しましょう。電球型蛍光灯ランプは、白熱電球を利用した場合の1/4以下で電気代がすみ、寿命も約6倍と長いので経済的です。白熱電球（54W）を電球型蛍光灯ランプ（12W）に取り替えた場合、電気代が年間約1,850円の節約（電気 84.00kWh、CO₂ 34.4kg 削減）になります。（スイッチ入・切を頻繁に行う場所よりも、長時間点灯する場所の方が向いています。）
- ・ 点灯時間を短くしましょう。白熱電球（54W）の点灯を1日1時間短縮した場合、電気代が年間約430円の節約（電気 19.71kWh、CO₂ 8.1kg 削減）になります。また、電球型蛍光灯ランプ（12W）の点灯を1日1時間短縮した場合、電気代が年間約100円の節約（電気 4.38kWh、CO₂ 1.8kg 削減）になります。

(テレビは)

- ・ 睡眠時などテレビを見ないときには主電源をOFFにしましょう。主電源を切らないと待機電力が消費されます。待機消費電力は各家庭電気消費のうち約1割も占めています。1日1時間テレビ（25インチ、ブラウン管）を見る時間を減らした場合、電気代が年間約700円の節約（電気 31.86kWh、CO₂ 13.1kg 削減）になります。同様に、液晶（20インチ）では、約330円の節約（電気 15.00kWh、CO₂ 6.2kg 減）、プラズマ（32インチ）では、約1,640円の節約（電気 74.57kWh、CO₂ 30.6kg 削減）になります。
- ・ 長期不在の時は、コンセントからプラグを抜く習慣をつけましょう。この時コンセントを抜かずに接続された機器の電源をOFFすることができる、スイッチ付きタップを使うと便利です。スイッチ付きタップは、テレビの他にもパソコンなどいろいろな電化製品に利用できます。
- ・ テレビの明るさと音量は適正に保ちましょう。必要以上に音を大きくしたり画面を明るくするのは電力の無駄使いになります。明るさと音量を最適（最大→中央）に調節すると、25インチのテレビ（ブラウン管）で電気代が年間約710円の節約（電気 32.35kWh、CO₂ 13.3kg 削減）になります。

(エアコンは)

- ・ エアコンは、夏は28℃、冬は20℃を目安に設定しましょう。エアコン（2.2kW）の冷房設定温度を27℃から28℃にした場合（外気温度31℃、使用時間1日9時間）、電気代が年間約670円の節約（電気 30.24kWh、CO₂ 12.4kg 削減）になります。また、同様に暖房設定温度を21℃から20℃にした場合（使用時間1日9時間、外気温度6℃の時）、電気代が年間約1,170円の節約（電気 53.08kWh、CO₂ 21.8kg 削減）になります。この状態でも、暑い時には薄着をし、寒ければ1枚着込むなど、衣服も上手に調整すると良いでしょう。
- ・ エアコンは、必要な時だけつけるようにしましょう。冷房を1日1時間短縮した場合（設定温度28℃）、電気代が年間約410円の節約（電気 18.78kWh、CO₂ 7.7kg 削減）にな

ります。また、同様に暖房（設定温度 20℃）では、電気代が年間約 900 円の節約（電気 40.73kWh、CO₂ 16.7kg 削減）になります。

- ・ エアコンの室外機は周辺に物を置かず、風通しをよくしましょう。吹き出し口に物を置くと、冷暖房の効果が低下し、電気の無駄使いとなります。
- ・ エアフィルターの掃除をしましょう。エアフィルターにほこりが詰まると空気の流れが悪化し、効率が低下します。フィルターが目詰まりしているエアコン（2.2kW）とフィルターを清掃した場合を比較すると、電気代が年間約 700 円の節約（電気 31.95kWh、CO₂ 13.1kg 削減）になります。
- ・ 春や秋などエアコンを使わない季節には、コンセントからプラグを抜きましょう。
- ・ エアコンは多くのエネルギーを消費するので、買い換える時には、省エネタイプの製品を選びましょう。

（石油ファンヒーターは）

- ・ 室温は 20℃を目安に設定しましょう。暖房設定温度を 21℃から 20℃にした場合（使用時間 1 日 9 時間、外気温度 6℃の時）、灯油代が年間約 820 円の節約（灯油 10.22 ℓ、CO₂ 25.4kg 削減）になります。
- ・ 石油ファンヒーターは、必要な時だけつけるようにしましょう。暖房を 1 日 1 時間短縮した場合（設定温度 20℃）では、灯油代と電気代が年間約 1,360 円の節約（灯油 15.91 ℓ、電気 3.89kWh、CO₂ 41.2kg 削減）になります。

（掃除機は）

- ・ 部屋を片付けてから掃除機をかけると、掃除機を使っている時間が短縮できます。利用する時間を 1 日 1 分短縮した場合、電気代が年間約 120 円の節約（電気 5.45kWh、CO₂ 2.2kg 削減）になります。

（屋外で）

- ・ 移動時には、徒歩や自転車、公共交通機関を利用しましょう。
- ・ 駐停車時のアイドリングストップを推進しましょう。急発進、空ぶかしの抑制、タイヤの空気圧の適正化や点検・整備に努めましょう。

<出典：財団法人省エネルギーセンター作成の「家庭の省エネ大事典 2008 年版」>

